

2019年

自動撮影装置による哺乳類の観察

東松島市 野蒜地区 宮戸地区



調査目的

野生動物は、人の生活圏のすぐそばで生活している種も多いが、人目をさけて行動するため、その姿を目撃する機会は決して多くはない。

野生動物の自然な姿を確認するために、センサーで感知して自動撮影するカメラを野蒜地区復興の森、宮戸地区に設置した。

設置状況



野蒜地区 復興の森

カメラ設置場所
野蒜地区 2か所



宮戸地区 2か所



調査結果

復興の森 哺乳類

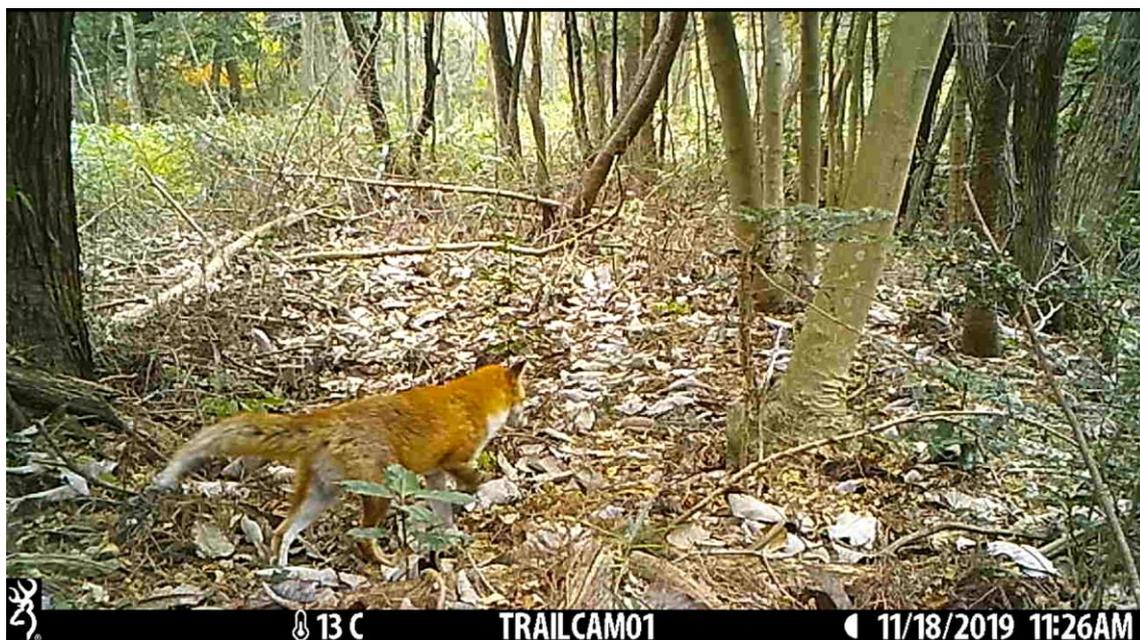
ネズミ類 (F1)



ハクビシン (F1)



ホンドギツネ (F3)



ホンドタヌキ (F3)



ニホンノウサギ (F1)



ニホンリス (F3)



宮戸島 哺乳類

ハクビシン (M3)



ホンドタヌキ (M3)



ニホンリス (M3)



その他、鳥類が撮影された。

シロハラ・ヤマガラ・アオジ・ツグミ・コジュケイ

ヤマドリ (M3)



まとめ

自動撮影で確認できた種は、哺乳類7種、ネズミ類、ニホンリス、ニホンノウサギ、ホンドタヌキ、ホンドギツネ、ハクビシン、ヒトが確認できた。

2018年度に確認された、ニホンアナグマ、ニホンイタチ、イエネコは確認されなかった。

これらの動物は、糞や足跡などのフィールドサインで生息は確認できていたが、姿が確認できたことは、個体数や生活様式を知るうえで貴重な記録となった。

今後は設置場所を工夫して、繁殖行動や採餌行動など、より詳細な記録ができれば、地域的な生活様式の特徴などあるのかなどが解明できるのではないかと期待している。

調査 川崎 公夫